

北陸先端科学技術大学院大学主催 Matching HUB Kanazawa (M-BIP) 2024 への応募

団体名●中尾公一 専門ゼミナールⅠ・Ⅱ／代表者名●中尾公一（経済学部経営学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

この活動は、経営学科を中心とする3年生の専門ゼミナールのゼミ生13名全員を対象に、2年生までの経営学の知識の活用と定着を企図して、北陸先端科学技術大学院大学主催 M-BIP (Matching HUB Business idea & Plan competition) 2024に応募することとした。M-BIP 2024は、地域の若い力をイノベーションにつなげることを目的とし、学生のアイデア、研究成果をビジネスに活かすために、学生を対象としたビジネスアイデア・プランのコンテストである。

活動内容

まず忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行・五十嵐伸吾・山田仁一郎(2022)『アントレプレナーシップ入門(新版)-ベンチャーの創造を学ぶ』(有斐閣ストゥディア)を用いて、ゼミ生全員が担当章を輪読し、起業やビジネスプラン策定に必要な基礎知識を学び、その知識の活用を検討した。またゼミ生達には、別途、「ソーシャルビジネス論」の講義の受講を求め、社会課題を解決するためのビジネスプラン作成に必要な知識を得てもらった。その上で、各ゼミ生が「あったらいいな」と思う、仮のビジネスプランを策定してもらった。また合同会社 C と H が運営する、OKNO to Bridge 金沢 BASE を訪問し、共同創業者の方々のお話を伺い、さらに同社の共同創業者や ARCHI HUMAA 株式会社の代表者に本学にお招きし、ゼミ生達の仮のビジネスプランのポスター・セッションを行い、コメントを頂いた。

さらに金沢市内やゼミ合宿を行った神戸や関西圏で各ゼミ生の仮のビジネスプランと同様の事業を展開している先輩事業者のお話を伺うこととした。(具体的な訪問先は、五十音順でかつ敬称略で、アクア株式会社 業務用洗濯機事業本部、一般社団法人リバブルシティイニシアティブ、NPO 法人トイボックス TSUMIKI COFFEE 幸町店、NPO 法人コミュニティリンク、NPO 法人プラス・アーツ、株式会社 栄光プリント Community & Library コトノハである。)

その上で日本政策金融公庫職員から融資者の視点でゼミ生に助言を頂き、ビジネスプランを提出した。

成果、結果の考察

ゼミ生13名のうち、1グループ4名がファイナリスト、1グループ2名と2名の個人(計8名)が入選となった。2024年11月12日、ファイナリストのグループは、石川県初の「地産地消型 B to B 食品取引アプリ」の運営を内容とした最終審査の公開プレゼンテーションを行い、QR インベストメント賞と、マイナビ賞を受賞した。



写真 受賞を喜ぶゼミ生達

今回の受賞はゼミ生自身の努力や創意工夫も大きかったと考えるが、ゼミ生達の訪問や助言を快く受け入れた前述の企業や組織関係者のご尽力によるものでもある。他方、惜しくも選から漏れたゼミ生達も含め、M-BIP への応募は、講義の理論的内容を振り返り、1からビジネスプランを考える大変さや利用者視点にたつこと等、経営学を主体的に考える機会となった。また先輩事業者にアポ取付けや多角的な視点が得る大切さなど、就職活動にもつながるとの声も聞かれ、積極的な教育効果が確認された。

今後の課題、展望

ゼミ生達は通常講義や公務員試験、就職活動準備との重複で、担当教員は関係各所との連絡調整で、各々大きな負担に苦しんだ。今後は今年度の反省も活かし、負担軽減も意識しつつ、ビジネス・プラン・コンテストへの応募を奨励してまいりたい。